

医療法人 八誠会

もりそう教育だより

令和5年4月発行（No.10）

発行／もりやま総合心療病院
看護部

TEL052-791-2133



病床再編で病院が動いています

年に3回発行している教育だよりも、これが第10号になります。毎年新たな対象に同じ内容の研修を行っているところもあり、似た内容にはなるのですが、それでも読み比べてみると少しずつ発展しているような気もしております。今年は4月から病床再編でE2病棟が休床して8病棟427床の病院になりました。「入院中心医療から地域生活中心へ」と言われ始めてから随分と時が過ぎましたが、病院も少しずつ変わってきています。

急性期治療、認知症、特殊疾患などの病棟は、これまでと大きく変わりなく、それぞれの役割を果たしておりますが、リハビリ病棟が主に退院支援を行う病棟とリカバリー支援を行う病棟になりました。リカバリーというのは、精神疾患を持つ当事者が希望する生き方を主体的に求めることを言います。入院している方には、これまで病院のルールに合わせてもらうことや医療者が考えるよりよい生き方を考えがちになっていましたが、その人の人生はその人のもので、私たちは伴走者だということを忘れずに支援を行っていけたらと思います。ベッドコントロールも地域連携室が担ってくれるようになります。変わったばかりなので、まだ具体的な結果は言えませんが、病床数が減ったことで地域生活への流れが活発になればいいなと思っています。また、今後の教育だよりでお話できればと思います。

患者様の権利を守るために

東京八王子の滝山病院の患者暴行虐待事件が話題になっています。昨年5月には、神戸の神出病院でも虐待事件が発覚し、昨年度は倫理研修に力を入れた1年になりました。悲しいことですが、様々な報道を見ていると、虐待が行われている病院では、自分たちが間違っているという感覚がマヒしてエスカレートしてしまっているのかなと思いました。間違っただけの行いをした人も悪いのですが、その人だけの問題ではなく、たくさんの患者様を一人でみるような体制、よくないことをよくないと言えない職場風土、法律を順守する意識やチェック機能が働いていない、職員自身が大事にされていない、などきっとたくさんの要因があるのだらうと思います。

最初は患者様のためにも思っている、コロナ禍だからしかたがないとか、こっちの方が楽だとか、どうせやっても変わらないからとか、あの人だってやっていないとか、疲れていると様々な考えが浮かんで来て、患者様より自分のために動くようになってしまうこともあるかもしれません。やはり、時に立ち止まって、話し合っ、自分の行いを見直す時間を持つことが大事だと思います。なので、今年も、倫理研修や目標管理の面接などの機会をちゃんと作って、お互いにエンパワメントして、いい看護をしていきたいと思っています。



今年も新入職の方がやってきました



今年も新人看護師 3 名の方に入職していただきました。コロナ禍のため控えられていた入所式が 3 年ぶりに行われました。新入職の方にとっては、社会人になったという緊張感、理事の方や、様々な部署の方と直接お会いし、病院の一員になったという実感を得られたのではないかと思います。オンラインや紙面での良さもありますが、やはり対面式っていいなと改めて感じました。研修に関しては、今年度は資料配布を中心に行っていた研修を再開する予定にしています。看護部の年間教育スケジュールを組み立てる中で、3 年前には普通に行っていた研修が新しいものに感じられる緊張感など戸惑いも感じています。精神科医療の動向や、刻々と変わる社会の状況に置いて行かれないように常にアンテナ感度を高く持つこと、コロナ禍でもスタイルを変えながら教育に携わった経験を活かしつつ、充実した内容にしていきたいと思っています。

【入職者基礎教育】

基礎教育内容

- ・ 「精神科医療について」 笹田院長
- ・ 「病棟の特徴・患者様との接し方」 林看護部長
- ・ 「感染対策について」 感染対策:川井師長
- ・ 「医療安全について」 医療安全:菊池副部長



笹田院長による講義の様子

【新人看護師技術演習】

看護研修委員による演習が行われました。内容は、排泄介助・酸素吸入・吸引・血糖測定・インスリン注射・筋肉内注射・採血・点滴について基礎知識の復習の講義、シミュレーターを使って正しい手技の獲得のため演習を行いました。研修開始時には、毎回ウォーミングアップとして、趣味や興味があることなどを話し、お互いを知るきっかけ作りとなり、とても和やかな雰囲気で行われました。その結果、研修内でも新人看護師からの質問や、できない手技を何度も繰り返して行うことにもつながったと感じております。一方の演習をする研修委員のスタッフは、「上手に伝えなければ」「正しい手技を身につけてもらうように指導をする」などのプレッシャーを感じ、不安な表情を研修前には見せていましたが、さすがというべきか研修ではにこやかに、手技に関しては丁寧にかつ正しい手技を根気よく指導していました。指導するスタッフもまた、新人演習を通してスキルアップしています。



石の上にも3年

看護教育に移動になって3年目の春を迎えました。振り返ると電子カルテの導入、コロナ感染の拡大など、あっという間に日々が過ぎていったように思います。3年というキーワードから思いつく言葉は有名なものはやはり「石の上にも3年」ではないでしょうか。つらくてもがまん強く耐えていれば、いつかは必ず成功するという意味です。3年というのは具体的な期間として指しているわけではなく、「ある程度の長い年月や期間」の比喩です。指標として「とりあえず3年間頑張ろう」と使うことができますが、本来の意味と異なるので知っておくといいと思います。

看護教育主任 小川さなえ（精神科医学会認定看護師）